

# NPO法人キャンサーリボンズ 2025年度 活動の概要



# I. アートとケア –いのちの対話館–

第4回日本地域医療学会学術集会で  
奨励賞を受賞

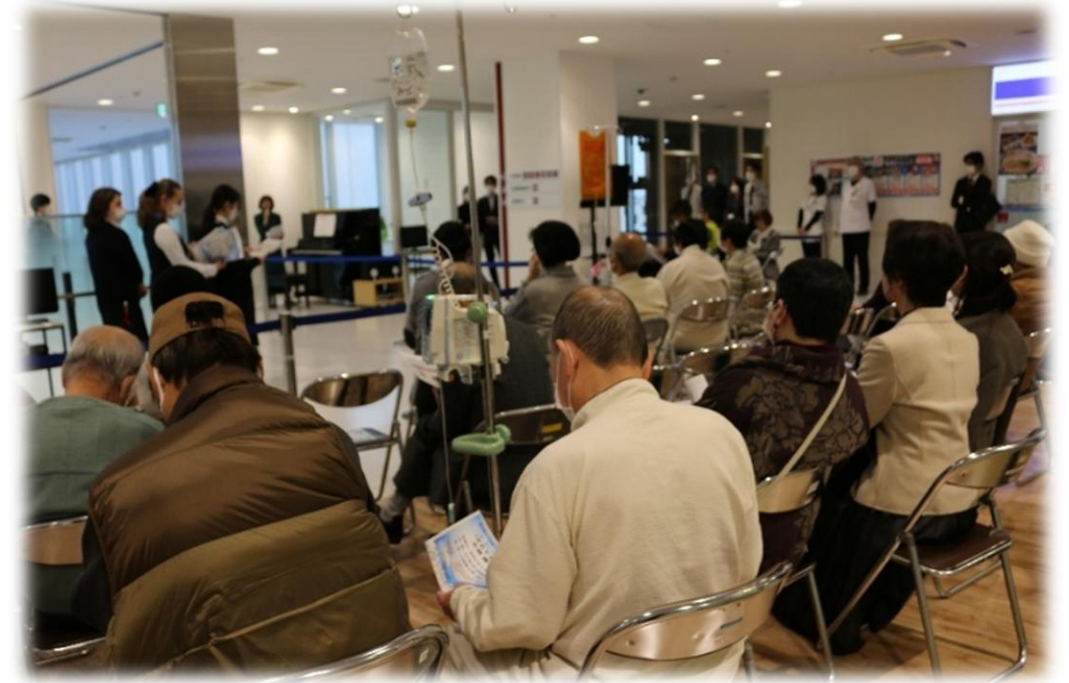
# AIピアノを通じたアートとケアの対話 ～地域医療の活性化を目指して～

奥田万貴	桑名市総合医療センター	管理栄養士	eiyou@kuwanacmc.or.jp
新井鷗子	東京藝術大学	客員教授	tanaka.oko@ms.geidai.ac.jp
高倉利恵	桑名市総合医療センター	理学療法士	takakurar@kuwanacmc.or.jp
加藤健祐	桑名市総合医療センター	理学療法士	
廣瀬瑞穂	NPO法人キャンサーリボンズ	事務局長	ribbonz@ellesnet.co.jp
岡山慶子	NPO法人キャンサーリボンズ	副理事長	ribbonz@ellesnet.co.jp
白石泰三	桑名市総合医療センター	理事長	shiraishi@kuwanacmc.or.jp

# 2024年1月 だれでもピアノ®を、 桑名市総合医療センターが病院として日本で初めて導入

「だれでもピアノ®」とは、1本指でメロディを弾くと、自動で伴奏とペダルが追従し熟練したピアニストのような演奏ができるAIを活用した楽器(特許6744522藝大)です。

2015年 ショパンの「ノクターン」を弾きたいと願う身体の不自由な車いすの少女のために東京藝術大学COI拠点(開発者は、東京藝術大学客員教授の新井鷗子先生)とヤマハ株式会社が共同開発しました。



2024年2月、院内でお披露目会と体験会を開催。通りがかった職員や患者さんが興味を示し演奏してくださいました。

# 2024年7月～ 就労支援事業所の利用者に向けたレッスン

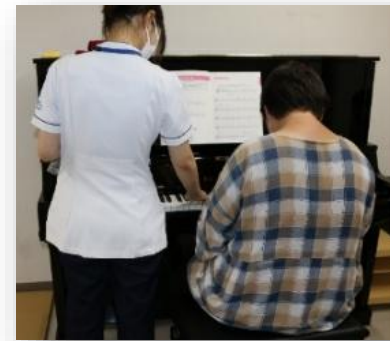
対象: 就労支援事業所を利用する軽度精神・知的障害(3級)

累計7名(男性2名、女性5名)

日時: 週1回(月または木) 1人15分程度

練習曲: 「だれでもピアノ®教則本を使用

初級曲「きらきら星」「よろこびの歌」など



生活リズムの確立、通所の動機付け、自己管理能力を獲得

病院職員(管理栄養士、理学療法士、事務員、  
など)が指導者(ファシリテーター)

## 2025年3月、7月 だれでもピアノ® 院内コンサートを開催



【観客】 40名余(各回)・・・事業所利用者、事業所職員、病院職員、外来患者、小児  
リハビリ通院親子、院内保育園職員・園児、地域住民

成果) レッスンを受けた側

他者との交流を通じ、自己肯定感やコミュニケーションが拡大

成果) ケアを提供する側

職種を超えたつながりから感じる、支援の質の向上や達成感、  
喜び、やりがいなどの獲得

今後はリハビリでの活用を計画中。さらに、地域医療の活性化、ピアノに人が集まり  
弾く人も教える人も聴く人も笑顔になる、社会全体のwell-beingの向上を目指す。

# (2)精神腫瘍医による心についてのレクチャーとがんサバイバーとの楽器の協奏がひとつになったふコンサート

## 講演とコンサート アートとケア —あなたと共に—

日時 : 2025年7月13日(日) 14:00-16:30  
 会場 : 日本キリスト教団 行人坂教会(東京都目黒区)  
 主催 : アートとケア・いのちの対話館  
 共催 : NPO法人キャンサーリボンズ  
 事務局 : 『気球の旅』を共に

グループカウンセリング  
 で出会ったおふたり



**講演とコンサート**  
 アートとケア —あなたと共に—

**2025 7/13 (日)**  
 14:00-16:30

日本キリスト教団 行人坂教会  
 東京都目黒区下目黒 1-4-1 ※地図は裏面  
 参加費 1,000円

主催: 「アートとケア・いのちの対話館」  
 共催: NPO 法人キャンサーリボンズ  
 協力: 朝日エール  
 事務局: 『気球の旅』を共に

**講演: 清水 研さん 『不安を味方にして生きる』**  
**バイオリン & ピアノ: 清水 研さん、米田真希子さん**  
**オルガン演奏: 飯 靖子さん**  
**トーク「アートは、ケア」進行: 岡山 慶子**

<出演者プロフィール>  
 清水 研: がん研有明病院腫瘍精神科部長、精神科医・医学博士、がん患者 5,000 人以上とその家族との対話経験を持つ。著書『もしも一年後、この世にいないとしたら。』、『他人の期待に応えない』、『絶望をどう生きるか』など多数。メディア掲載 (NHK、朝日新聞、産経新聞、ほか)。  
 米田真希子: プロピアニスト。ブラジルの一線で活躍後乳がん治療の為帰国。その後上肢リンパ浮腫を発症、2024年再発。1人の人間としてリンパ浮腫とがんとの共存と向き合いながら、音楽への情熱を持ち続け、自分らしい挑戦を続けている。HP: makikoyoneda.com  
 飯 靖子: 桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業、国立音楽大学大学院オルガン科修了。ドイツライブツヒ音楽院に留学。元青山学院女子短期大学教授。現在、雲南坂教会オルガニスト、聖歌隊指揮者。日本キリスト教団賛美歌委員会委員。東京 21 合唱団音楽監督。キリスト教ラジオ放送局日本 FEBC パーソナリティ。

「バイオリンと私~全体的な自分になるために~」清水 研さん  
 「音に導かれ、ここで出会う」米田真希子さん

お申込みはこちら▼

※当日入場も可能です。会場へ直接お出で下さい。  
 ※※書さなど、当日のご体調を優先されてご無理のないようご参加ください。

# グループカウンセリングで出会った、精神腫瘍医とがんサバイバー（ピアニスト）など、 アート（音楽）とケアに携わるメンバーが集まった

## ■出演者プロフィール

- 清水 研** : がん研有明病院腫瘍精神科部長、精神科医・医学博士、がん患者 5,000 人以上とその家族との対話経験を持つ。著書『もしも一年後、この世にいないとしたら。』、『他人の期待に応えない』、『絶望をどう生きるか』など多数。メディア掲載（NHK、朝日新聞、産経新聞、ほか）。  
NPO 法人キャンサーリボンス委員、「こころプロジェクト」リーダー
- 米田真希子** : プロピアニスト。ブラジルの一線で活躍後乳がん治療の為帰国。その後上肢リンパ浮腫を発症、2024 年再発。1 人の人間としてリンパ浮腫とがんとの共存と向き合いながら、音楽への情熱を持ち続け、自分らしい挑戦を続けている。  
HP: [makikoyoneda.com](http://makikoyoneda.com)
- 飯 靖子** : 桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業、国立音楽大学大学院オルガン科修了。ドイツライプツヒ音楽院に留学。元青山学院女子短期大学教授。現在、霊南坂教会オルガニスト、聖歌隊指揮者。日本キリスト教団賛美歌委員会委員。東京 21 合唱団音楽監督。キリスト教ラジオ放送局日本 FEBC パーソナリティ。
- 秋山正子** : 認定 NPO 法人マギーズ東京 共同代表理事。訪問看護師・保健師、株式会社ケアーズ代表取締役・白十字訪問看護ステーション統括所長、特定非営利活動法人白十字在宅ボランティアの会理事長・暮らしの保健室室長、第 22 期東京都社会福祉審議会委員・順天堂医療看護学研究科大学院非常勤講師。  
第 47 回フローレンスナイチンゲール記章受章。

# 多彩なプログラムを通して、アートとケアを体感いただく時間に

◎開会／閉会の挨拶  
岡山慶子(キャンサーリボンス副理事長)



◎オルガン演奏※曲解説  
飯 靖子



◎バイオリン & ピアノ演奏 ※曲解説  
清水 研、米田真希子



◎講演『不安を味方にして生きる』  
清水 研(キャンサーリボンス委員)



◎トーク「アートはケア」  
清水 研、米田真希子、飯 靖子、秋山正子  
進行:岡山慶子



◎瞑想タイム  
ピアノ演奏:米田真希子



★94名が参加し、演奏やお話に耳を傾けた

# すべての参加者が「よかった」（「とてもよかった」89%、「よかった」11%）と回答

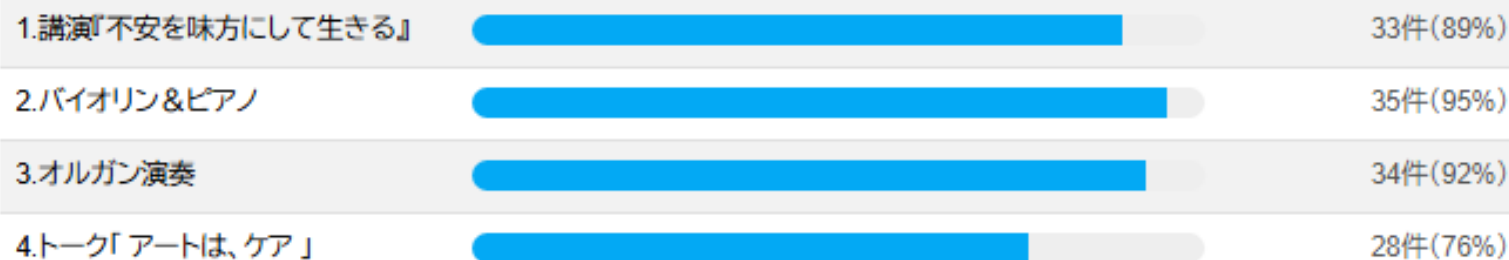
## 1.本日のイベントに参画していかがでしたか

回答数 37件



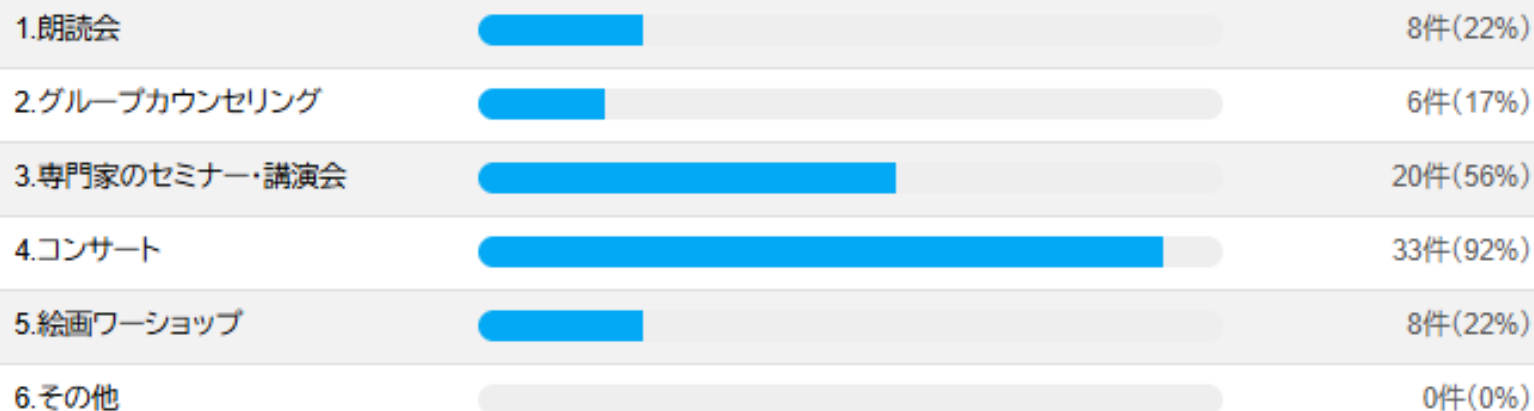
## 2. 本日のプログラムでよかったと思われるものに○をしてください。複数選択

回答数 37件




## 5.「こころプロジェクト」の活動で、参加してみたいと思われるプログラム

回答数 36件



# (3) 看護師対象の自画像ワークショップ(サンクスナースの一環)

- ◎看護管理者対象
- ◎“看護を担う”自分と静かに向き合う
- ◎ケアの本質とは何か
- ◎患者さんやスタッフとの信頼を築く「自身の顔」を描くを通して、看護師・看護管理者としての自身の内面に深く触れる
- ◎患者さんは看護師の表情や眼差しから安心を得ている。だからこそ、自分の顔を知ることが看護師という職業にとって、とても大切なこと
- ◎(化粧などで「強い自分」を作ったりしていない)本当の自分の顔をじっくり見つめると、今まで気づかなかった何かが映っているかもしれない。



**【公開収録】**  
**鼎談 & 自画像ワークショップ**  
参加者募集

**看護管理**  
まなびラボ  
presents

いのちに寄り添う看護師としての「私」を見つめる——そこから見えるケアの本質

看護の日にちなみ、日々患者やスタッフに寄り添う看護管理者の皆さまに向けて、「自分を見つめる時間」をご用意しました。  
自画像を描き、自身と向き合うことで、改めてケアの本質を見つめてみませんか？


鉛筆画の第一人者・木下晋先生は、ハンセン病元患者、誓女(ごぜ)、高齢者、そして病を抱えるご家族を描き続け、命の尊厳を静かに、力強く表現してきました。

今回の木下先生による自画像ワークショップでは、患者やスタッフとの信頼を築く「自身の顔」を描くことを通して、看護師・看護管理者としての自身の内面に深く触れていただけます。


また、ワークショップに先立ち「いのちに寄り添う看護師としての『私』を見つめる」をテーマに鼎談を開催。木下先生とともに、石垣靖子先生、濱口恵子先生を迎え、ケアの本質や看護における自己内省について語り合ってください(モデレーター: 岡山慶子さん)。

日々の実践を支える、新たな視点と気づきに出会う時間。皆さまご参加を、心よりお待ちしております。


**講師プロフィール**




**石垣靖子氏**  
北海道医科大学名誉教授  
北海道大学医学部附属看護学校教務主任、北海道大学病院副看護部長などを経て、1986年から医療法人東札幌病院看護部長・副院長、理事を歴任。1992年にエイガン女性大賞を受賞。  
2004年から北海道医療大学大学院教授、2016年から現職。  
患者、家族に身近な存在として、長年、ホスピス、緩和ケアに携わってきた。




**木下晋氏**  
国際的鉛筆画家  
1947年富山市生まれ。東京大学工学部建築学科講師、武蔵野美術大学客員教授、金沢美術工芸大学大学院教授などを歴任。  
(画像もご参照ください)



**濱口恵子氏**  
がん研究会有明病院トータルケアセンターサイバースHIP支援室  
現・国立がん研究センター中央病院看護師、現・聖路加国際大学助手を経て、1994～2001年医療法人東札幌病院勤務。その後、静岡県庁での開設準備を経て静岡県立静岡がんセンター副看護部長、2004年からがん研究会有明病院勤務。わが国で初めてのがん看護専門看護師。



**岡山慶子氏**  
モデレーター  
株式会社朝日エル 会長  
1986年朝日エル設立。日野原重明先生などの協働のもと、医療・福祉・女性支援などの課題に公民連携で取り組む。1990年「看護の日」の制定。『看護の心多みんなの心』を提案。当時、大江健三郎先生への講演依頼時に「人間の回復、社会の回復を」というテーマをいただき、これら2つのキーワードの社会化を目指している。



17歳の時、自由美術協会展に最年少で入選。81年渡米。帰国後、鉛筆による新たな表現に取り組む。最後の誓女と言われた小林ハル、谷崎潤一郎『痴人の愛』モデルの和嶋せい、元ハンセン病患者の詩人桜井哲夫などをモデルとする作品がある。現在はパーキンソン病を患う妻の姿を描く。  
自伝『いのちを刻む』(藤原書店)、画文集『祈りの心』(求龍堂)『生の深い淵から—ペンシルワーク』(里文出版)など。

自画像を描くことは、さまざまな意味があります。私たちの顔は、本質的なものですよ。だからこそ、自分の顔を見つめ、知ることはとても大切なこと。人生や社会との関わりの中で、顔は少しずつ変わっていきます。ふと鏡を見たとき「あれ？こんな顔をしてたかな」と思うことはありませんか？看護師の皆さんも、日々の仕事のなかで、「顔」を通じて信頼関係を築いています。患者さんは、皆さんの表情やまなざしから安心を得ています。だからこそ、自分の顔を知ることが、看護師という職業にとっても大切なことなのです。看護の現場で見せる顔と、私生活での顔は違うものですよ。どんなに大変なことがあっても、それを隠し、「看護師の顔」で患者さんに向き合わなければならないこともあるでしょう。ときには、化粧をして「強い自分」をつくることもあるかもしれません。でも、本当の自分の顔をじっくり見つめたことはありますか？そこには、今まで気づかなかった何かが映っているかもしれません。看護師は、どうしても自分に厳しくなりがちではないでしょうか。この時間が、皆さんにとって、自分自身を見つめ直す機会になればと思っています。

木下晋


**time table**

13:00	オープニング (講師紹介/趣旨説明)
13:10	鼎談 「いのちに寄り添う看護師としての『私』を見つめる」
14:10	自画像ワークショップ 「ケア者としての私と向き合う—病を見つめる、思いを探る、心を合わせる」
14:40	ダイアログセッション ・参加者同士で作品や描いて感じたことをシェア ・看護の仕事と「観察すること」「表現すること」の共通点についての対話
15:40	クロージング
16:00	終了

申込方法：以下のURLもしくはQRコードから必要事項をご記入の上、送信をお願いします。

<https://x.gd/vK0WR>

問い合わせ先：医学書院「看護管理」「看護管理まなびラボ」編集部  
kanlabo@igaku-shoin.co.jp 電話 03-3817-5777 (平日9:00-17:00)



**医学書院**

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>  
[販売・PR部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: em@igaku-shoin.co.jp

# いのちに寄り添う看護師としての「私」を見つめる



木下 晋<sup>すすむ</sup>氏  
国際的鉛筆画家



石垣靖子氏  
北海道医療大学名誉教授



濱口恵子氏  
がん研究会有明病院  
トータルケアセンターサバイバーシップ支援室

1947年富山市生まれ。東京大学工学部建築学科講師、武蔵野美術大学客員教授、金沢美術工芸大学大学院教授などを歴任。

北海道大学医学部附属看護学校教務主任、北海道大学病院副看護部長などを経て、1986年から医療法人東札幌病院看護部長・副院長、理事を歴任。1992年にエイボン女性大賞を受賞。2004年から北海道医療大学大学院教授、2016年から現職。患者、家族に身近な存在として、長年、ホスピス、緩和ケアに携わってきた。

現・国立がん研究センター中央病院看護師、現・聖路加国際大学助手を経て、1994～2001年医療法人東札幌病院勤務。その後、静岡県庁での開設準備を経て静岡県立静岡がんセンター副看護部長、がん研究会有明病院副看護部長、新東京病院を経て、2022年より現職。わが国で初めてのがん看護専門看護師。

★鼎談のモデレーターは岡山慶子副理事長

参加者による「鏡を見ないで描いた自画像」と「鏡を見て描いた自画像」の前で語り合う。「それが患者さんから見えているあなた。もっとその顔をほめていいと思います。」「時には自分を見つめ、いたわり、問いかける時間も必要。そんなふうに、看護師としての私を育てていきたいものですね。」

※再録記事をお読みにになりたいという場合は、事務局までご連絡ください。



# (4)朗読(がんの治療と暮らしフェア2025のオープニングとして)

届けたいメッセージは『あなたには、明日、生きる意味がある』

「がんの治療と暮らしフェア2025」が掲げたのは、『あなたが大切だから』。  
オープニングとして、こころのことをまず語り合うセッションを設けました。  
幕開けは、中井貴恵さんによる朗読『あなたには明日、生きる意味がある』としました。

11:00~12:00 オープニング


## あなたには明日生きる意味がある ～あなたが大切だから～

中井貴恵さんによる朗読と、精神腫瘍医をまじえた鼎談を、ゆっくりとお聴きいただきます。

**開会挨拶:** 小西郁生さん  
／NPO法人キャンサーリボンズ理事長、独立行政法人国立病院機構京都医療センター名誉院長

**朗読:** 中井貴恵さん／俳優、エッセイスト

**鼎談:** 中井貴恵さん／俳優、エッセイスト  
大西秀樹さん／埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科診療部長、教授  
岡山慶子さん／NPO法人キャンサーリボンズ副理事長




数十枚残っておりますので、ご希望の方は事務局宛ご連絡ください。

朗読CD『あなたには、明日、生きる意味がある』は、キャンサーリボンズ発足前に訪れた米国のがん専門病院のチャプレンが語った言葉。患者さん、ご家族などに向けて、生きることへの温かなメッセージを届けたいと、制作しました。各分野の11の方がお寄せくださった短編文章を軽井沢朗読館館長で朗読家の青木裕子さんに朗読してくださいました。

今回は、木下晋さん(鉛筆画家)、藤井信吾さん(キャンサーリボンズ理事、京都大学名誉教授)、堀文子さん(日本画家)の3人の言葉を中井さんに読んでいただきました。

# 届けたいメッセージは『あなたには、明日、生きる意味がある』



小西郁生理事長による開会挨拶



中井貴恵さんによる朗読



精神腫瘍医の大西秀樹委員、岡山慶子副理事長が加わった鼎談



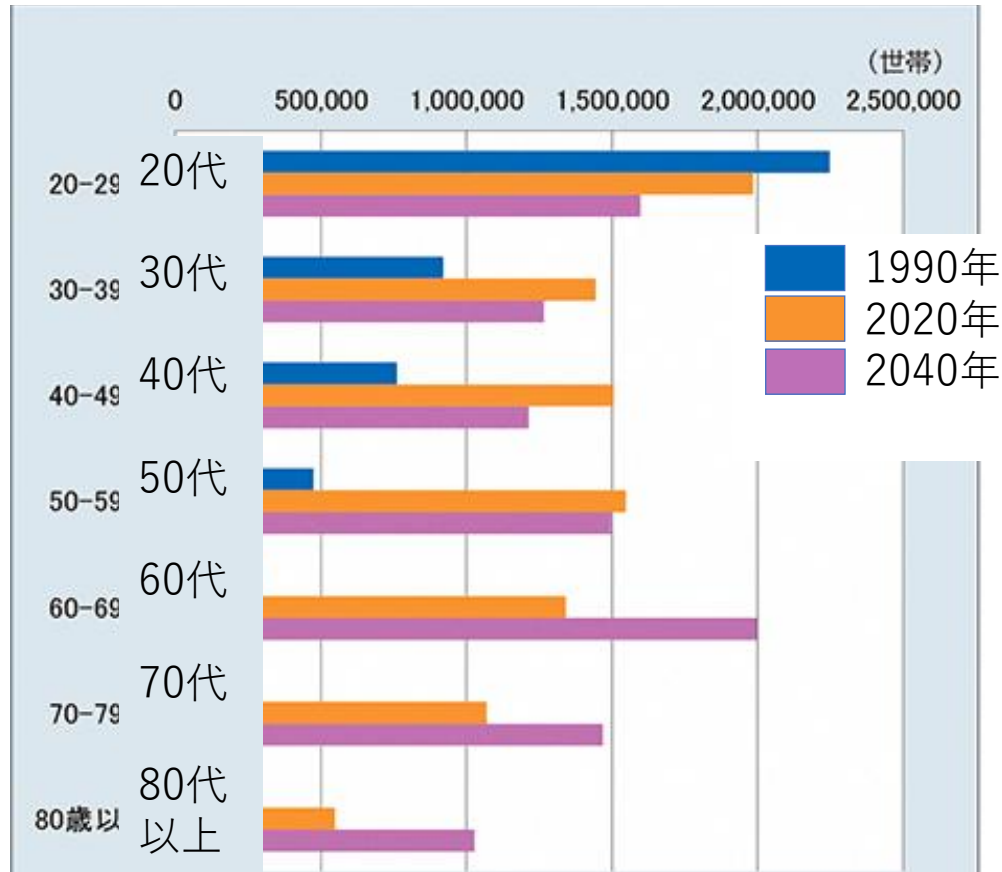
会場となった東京・丸の内の安田生命ホールには、約200名が参加した



## Ⅱ. ひとりで暮らす人のがん治療と生活支援

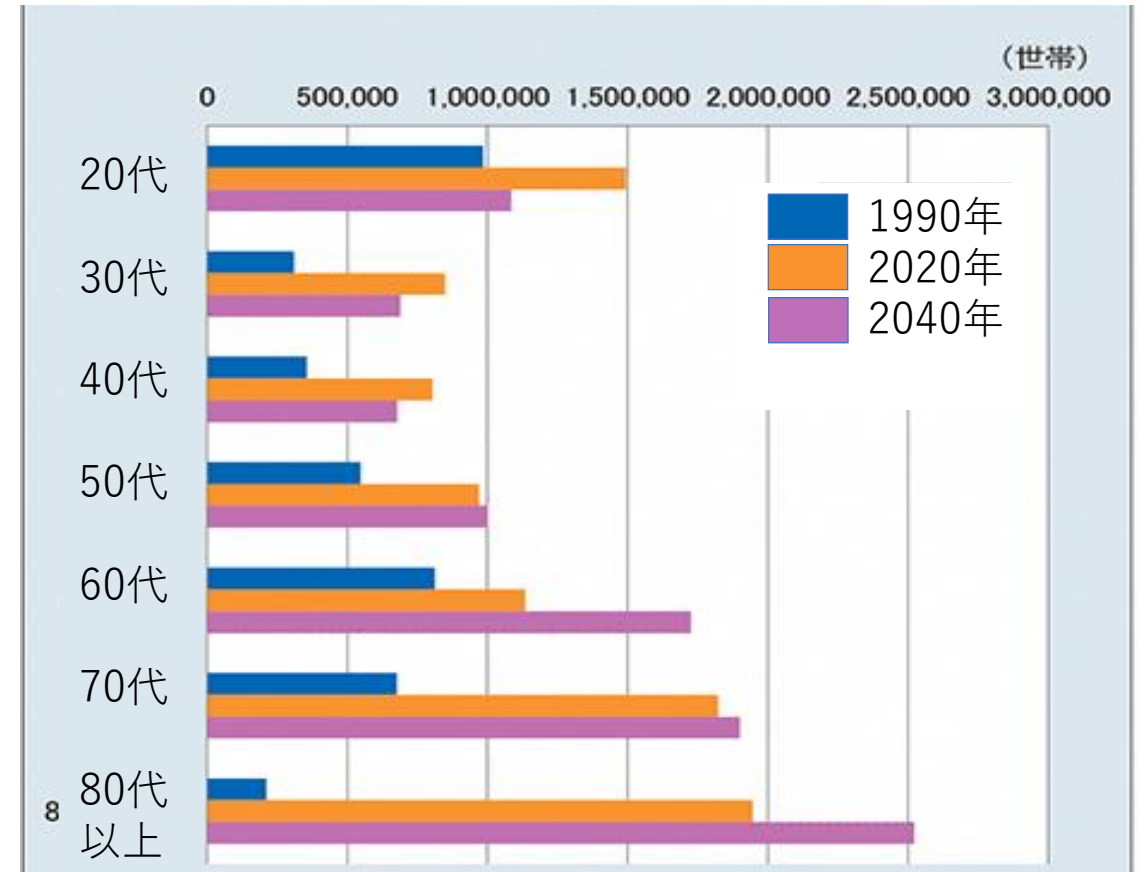
# 単独世帯は増加、高齢化

## 年齢階層別単身世帯数推移 【男性】



資料：2020年までは総務省統計局「国勢調査」、2040年推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（平成30年推計）による。

## 【女性】



出典：厚生労働省 令和5年版厚生労働白書  
—つながり・支え合いのある地域共生社会

<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001329464.pdf>

# おひとりさま患者さんへの調査結果の分析・学会発表

## 2023年12月:ひとり暮らしのがん患者さん対象のweb調査

- 目的 ひとり暮らしのがん患者が治療過程で直面する困りごと・悩みと対処行動を明らかにし、支援のありかたを検討する
- 対象者 40歳～69歳、がん治療中または治療終了後1年以内の患者さん206名（男女半々）
- 調査項目 単独生活上の困りごと・悩みへの対処／情報収集／相談行動／制度・支援システムの利用ほか

## 2024年10月:第62回日本癌治療学会学術集会 一般演題発表(ポスター)

## 2025年 2月:第39回日本がん看護学会学術集会 一般演題発表(ポスター)

## 2026年 2月:第40回日本がん看護学会学術集会 交流集会企画(50分間のパネルディスカッション)

100名を超える参加者は立ち見ができるほどで、関心の高さがうかがえた。  
調査結果の中から、今回は「相談行動」にフォーカスして議論を展開したが、具体的な事例がもう少しあれば、もっと活発なディスカッションや臨床現場の課題・困りごとの共有ができたと思われる。  
今後さらに、事例をご提供いただく機会を持ちたい。

第40回日本がん看護学会学術集会  
2026/2/22 10:00~10:50  
7階 第11会場

## 交流集会21



# 一緒に考えよう！ おひとりさまのがん治療・生活支援 ～ 看護師は相談相手になっている？ ～

- はじめに：企画趣旨 廣瀬 瑞穂 (特定非営利法人 キャンサーリボンズ)
- 話題提供① データからみた、おひとりさまのがん治療・生活上の困りごと・悩みと対処行動 栗林 理恵 (特定非営利法人 キャンサーリボンズ)
- 話題提供② おひとりさま支援における病院看護師の戸惑いと取り組み 花出 正美 (がん研究会有明病院)
- ディスカッション 清水 多嘉子 (がん研究会有明病院)  
岡山 慶子 (特定非営利法人 キャンサーリボンズ)  
話題提供者

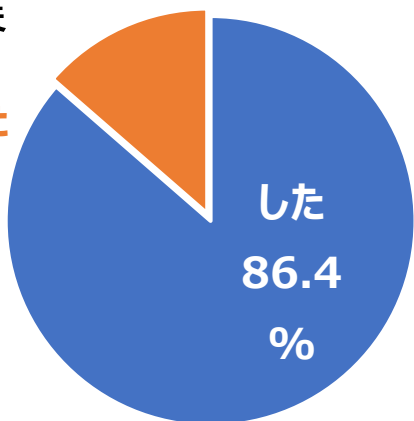


# がん治療・療養生活上の困りごと・悩みへの対処行動～相談行動にフォーカスして

多くの人は治療にあたって、情報収集や相談はしている

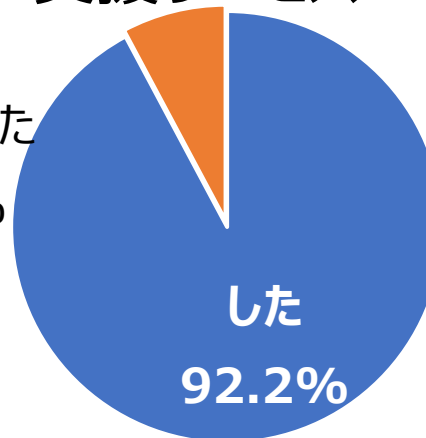
## 情報収集

しなかった  
13.6%



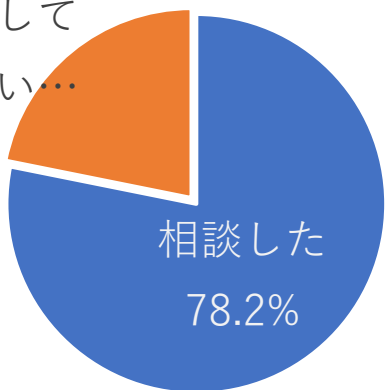
## 制度・支援サービス

しなかった  
7.8%



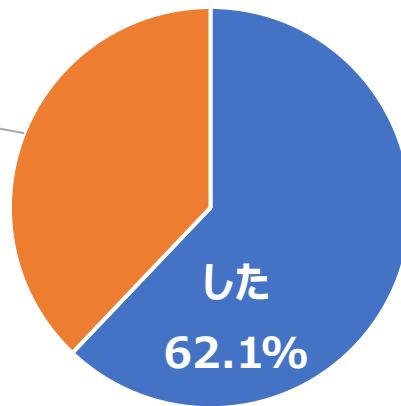
## 医療者への相談

相談して  
いない...

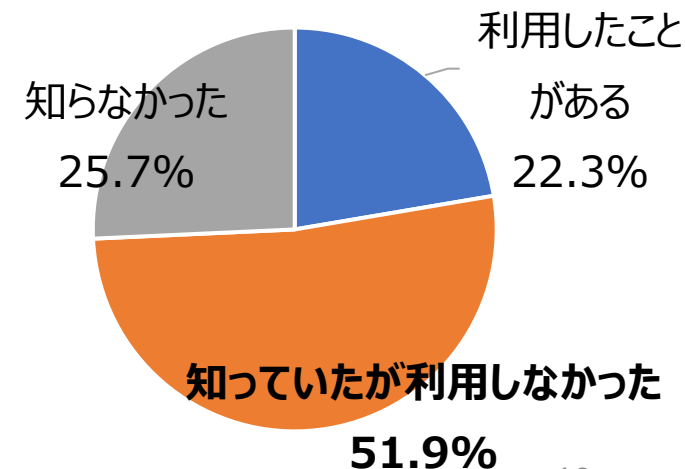


## 医療従事者以外

しなかつ  
た  
37.9%



## がん相談支援センター等

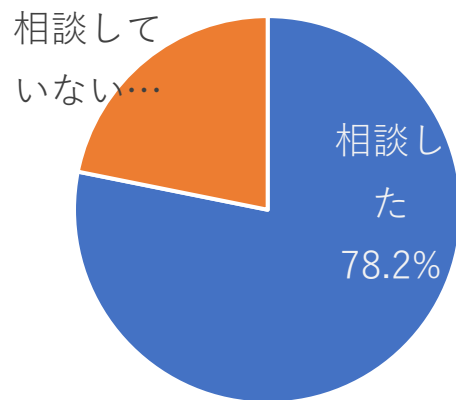


# がん治療・療養生活上の困りごと・悩みへの対処行動①医療者への相談行動

## 相談したかったができなかった人が、どの医療者でも1割前後

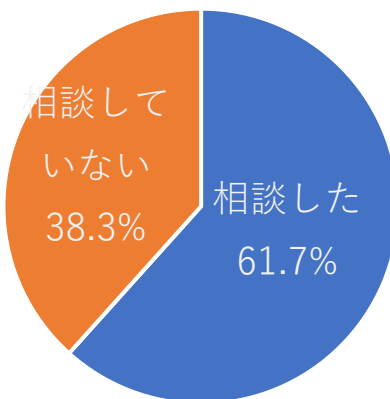
(n=206)

### ■ 医療者に(いずれかの医療者に相談したと答えた人)



### ■ 主治医以外の医療者に

(主治医以外の医療者に相談したと答えた人)



主治医以外だと相談は6割に。

### ■ ①医療者への相談行動

がんの主治医



看護師



薬剤師



主治医以外の専門医師 (心のケア、緩和ケア等)



がん治療病院以外の医師 (普段のかかりつけ医...)



調剤薬局の薬剤師



栄養士



ソーシャルワーカー



心理師



■ 相談した

■ 相談したかったができなかった

■ 相談しようと思わなかった

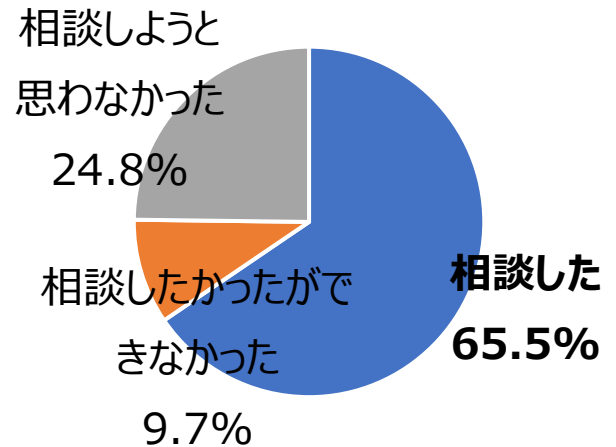
0%

50%

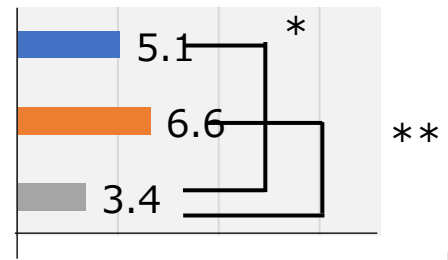
100%

相談したかったができなかった人が、悩みの数が多い

● 主治医への相談行動別 治療前の困りごと・悩みの出現数



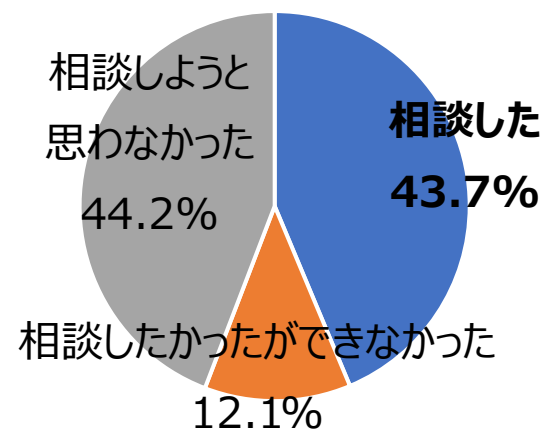
主治医に相談した (n=135)  
 主治医に相談したかったができなかった (n=20)  
 主治医に相談しようと思わなかった (n=51)



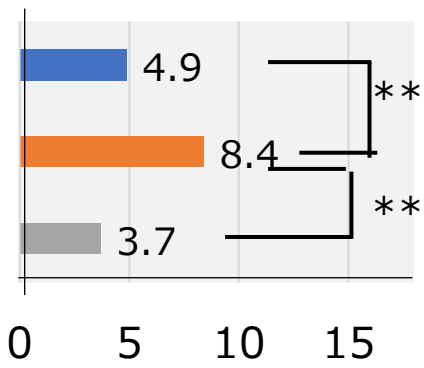
言えないで悩みを抱えていた？  
 どうしたらこの人たちに相談してもらえる？

困りごと・悩みの出現数  
 \* p < 0.50, \*\* p < 0.01

● 看護師への相談行動別 治療前の困りごと・悩みの出現数



看護師に相談した (n=90)  
 看護師に相談したかったができなかった (n=25)  
 看護師に相談しようと思わなかった (n=91)



困りごと・悩みの出現数

## メンタル面の悩みが最も多い

治療前の困りごと・悩み<上位10項目>

0.0 20.0 40.0 60.0 (%)

気持ちが落ち込んだり不安定になること

仕事や職場への影響

がんの症状や副作用、後遺症等による体調不良

治療費の支払い・家計・お金の管理

通院による負担や影響

がん・がん治療（方法、副作用・後遺症など）に関する情報を見つけること

日常生活・家事（買い物、食事の準備、洗濯、ペットの世話など）

がん治療や副作用などに関して見通しをもつこと

がんの治療方法を選択すること

自分らしさ・大切にしたいこと・生きかた・生きがい・価値観などの折り合い

■ 男性  
■ 女性

## Ⅲ. がんの治療と暮らしフェア

【開催日時】 2025年11月20日(木) 11:00~18:15

【テーマ】 ~あなたが大切だから~ がんの治療と暮らしフェア2025 治療・セルフケアから、こころ・暮らし・生き方まで

【開催場所】 明治安田生命ヴィレッジ丸の内(〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル)

【主催】 NPO法人キャンサーリボンズ

【共催】 明治安田生命保険相互会社 / 株式会社明治安田総合研究所 ※包括連携協定を締結

【パートナー】

(セミナー) アリルジュ株式会社、一般社団法人日本エンドオブライフケア学会、一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ

(ステージイベント) イトキン株式会社、株式会社スヴェンソン、lululemon athletica JP

(展示) a-jolie(アジョリー)、オイシックス・ラ・大地株式会社、大塚製薬株式会社ニュートラシューティカルズ事業部、一般社団法人がん医療の今を共有する会(ACT)、株式会社スヴェンソン、日清食品株式会社、一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ(JAMT)、株式会社ファンケル、NPO法人HopeTree

(相談) 公益社団法人日本栄養士会栄養ケア・ステーション®

【後援】 国立研究開発法人国立がん研究センター、東京都、公益社団法人東京都医師会、公益社団法人東京都看護協会、公益社団法人全国幼児教育研究協会、公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会、がん情報サイト「オンコロ」、がん情報サイト「がん療養.JP」

【事前参加登録人数】 726名

※セミナーオンデマンド配信 (2026年1月~3月)



①あなたには明日生きる意味がある  
~あなたが大切だから~



②今、知っておきたい「がんの経済毒性」  
~医療費の仕組みはどう変わる？  
今からできる備え~



③治療だけでは終わらない  
~がんとともに歩む、暮らしのリアル  
と選択~



④がんを治療する人に知ってほしい。  
栄養・食の考え方&実践法



⑤あなたは何を大切にしたいですか？  
共に考えたい、これからの生き方・暮らし方



⑥がん治療と仕事の両立  
~わたしたちができること~

# イベントの様子 暮らしに役立つ情報 (4階明治安田ホール ホワイエ) 「情報を探す・活用する」



生活の工夫カード  
(国立がん研究センター中央病院提供)



QOL健診(明治安田×弘前大学)



一般社団法人日本癌医療翻訳アソシエイツ  
(JAMT)



一般社団法人日がん医療の今を  
共有する会(ACT)

※セミナー会場(明治安田ホール)で休憩時間  
中に、啓発動画を2回放映



NPO法人ホープツリー



NPO法人キャンサーリボンズ



セミナー受付



山田邦子さん率いるスター混声合唱団による、コンサート  
～歌とトーク～



ヘアメイク&ファッションショー

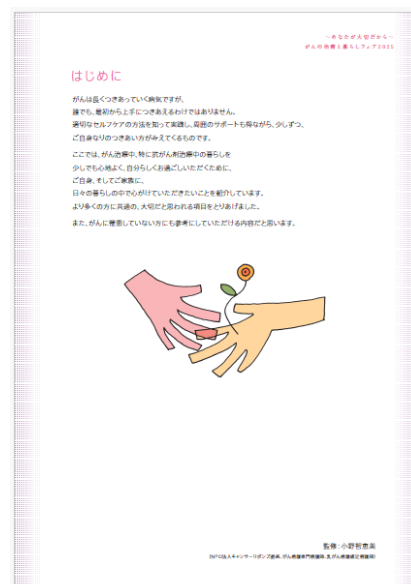


手軽に続ける。  
からだを整えるストレッチ



映像セミナー

イベントの様子 情報パネル展示（1階アトリウム）



がん治療と暮らしに役立つ情報パネル展示（8枚）

イベントの様子 暮らしに役立つ情報・グッズ展示・お試し (1階アトリウム)  
「よりよく食べる」「自分らしく装う」



日清食品株式会社



オイシックス・ラ・大地株式会社



大塚製薬株式会社



日本栄養士会 栄養ケア・ステーション®  
(栄養のあるまち®)



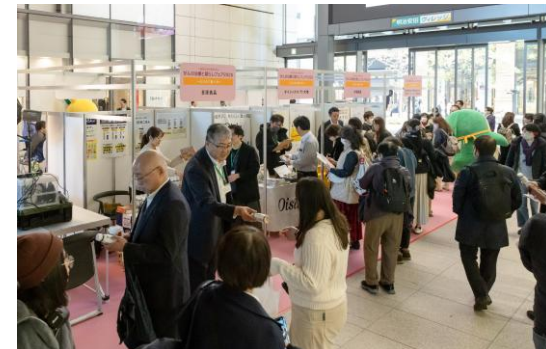
株式会社ファンケル



株式会社スヴェンソン



a-jolie (アジョリー)



## IV. 治療継続やQOLを支える栄養・食

# がん化学療法開始前からの早期栄養介入

## 第63回日本癌治療学会学術集会(2025年10月16~18日 @パシフィコ横浜)でのポスター発表

キャンサーリボنزと桑名市総合医療センターが共同で実施した、「がん化学療法開始前からの早期栄養介入の運用方法検討と実際の取り組み」についての調査研究結果を、桑名市総合医療センターの栄養管理室室長 長谷川恭子さんを筆頭研究者として一般演題発表。

医師による発表が多数の中で、管理栄養士による発表は注目を集め、医療従事者から、栄養介入の方法や多職種連携の始め方について多くの質問が寄せられました。

### <対象>

外来化学療法予定の化学療法開始前のがん患者さん  
(非小細胞肺癌、胃癌、大腸癌、膵癌)

### <運用方法>

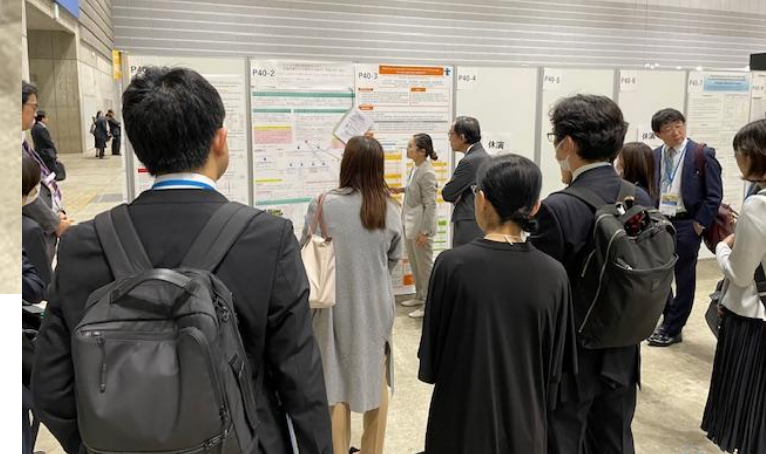
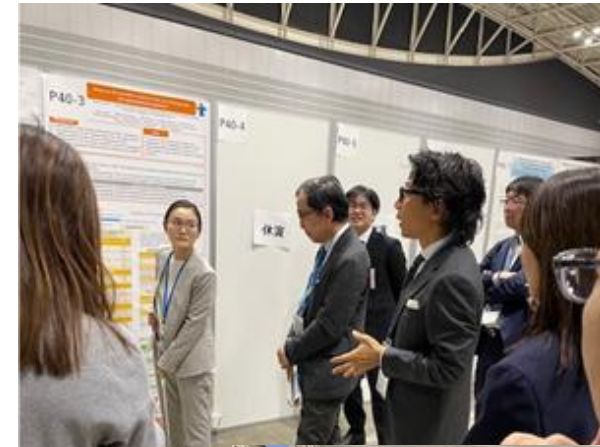
- ①外来化学療法オリエンテーション時に看護師より栄養介入提案
- ②化学療法開始目的の入院時に医師より栄養介入提案

### <栄養介入>

- ①骨格筋量維持の必要性と栄養摂取についてリーフレット作成
- ②月1回の管理栄養士による栄養指導とInBodyによる体成分分析、握力測定
- ③栄養摂取状況に合わせた1日1-2本のホエイプロテイン含有飲料の提案

### <プログラムの評価方法>

- ①栄養指導件数による介入数の評価
- ②介入患者への栄養に対する意識の変化



# 調査結果のポイントと、これから

- ◆各診療科医師への個別依頼と化学療法室看護師との連携により、化学療法開始前からの早期栄養介入が可能に。
- ◆栄養介入プログラムの運用開始2週間では介入人数は0名であったが、開始6カ月では15名(入院6名、外来9名)へと増加した。
- ◆栄養介入の提案は医師から5名、化学療法室看護師から8名、管理栄養士から2名
- ◆栄養指導件数全体に対するがん患者さんへの栄養指導件数の割合の高まり  
2023年度:14件/4232件(0.3%) ⇒介入開始後6カ月間:42件/2041件(2.1%)
- ◆患者さんの声からは、栄養に対する意識の変化や精神的サポートへも繋がったことがわかる
- ◆院内の意識が変わり、医師による栄養介入のオーダーが増えたり、若い栄養士の関心も高まっている

職種間のコミュニケーションの促進

薬剤師がいずれかの場面で全患者へ介入しているのと同じように、タイミングを合わせることによって、職種間での情報共有へ

今後は介入件数の増加を図り、術前、術後補助、進行や再発など化学療法の時期に合わせた早期栄養介入の有用性も検証したい。

キャンサーリボンズで  
できることは？

介入事例収集やその  
情報・ノウハウの共有  
を促すことにより、早  
期介入に取り組む施設  
の増加に貢献したい